

氏名	藤 田 幸 男
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 3 5 5 号
学位授与の日付	昭和44年 3 月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 5 条第 2 項該当)
学位論文題目	超低体温法の研究
論文審査委員	教授 砂田 輝武 教授 田中 早苗 教授 福原 武

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

灌流冷却法による超低体温下において、稀釈の限界を探るとともに、超低体温下での至適稀釈率を検討するため研究を行った。実験犬は全血灌流群、20%稀釈群、50%稀釈群、70%稀釈群について行ない食道温が25℃以下での測定値について検討した。70%稀釈群には数例肺水腫の発現がみられた。灌流冷却終了時（10℃）に50%、70%奇釈群は高度の代謝性アシドーシスとなり、うち数例は加温終了時に不可逆性の代謝性アシドーシスに移行した。脱落血液量、総頸動脈流量から末梢循環状態を推定し、20%、50%、70%稀釈群間に有意の差はなかったが全血群は悪い成績となった。以上により食道温25℃以下では20～50%稀釈が最も安全と考えられ、臨床例12例に35～40%稀釈で灌流冷却、循環停止を行なった。12例中10例は脳動脈瘤、2例は上行大動脈瘤である。うち死亡は3例で超低体温が原因であったのは1例もなかった。

（岡山医学会雑誌第81巻第1．2号昭和44年2月掲載予定）

論文審査の結果の要旨

本研究は超低体温法における大量稀釈灌流冷却法について研究したものであるが、そのさいにおける血流稀釈の限界と至適稀釈率を明らかにし、超低体温法の安全性の向上について重要な知見をえたものとして価値ある業績であると認める。

よって本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。